



The Wonderful Behavior of CJ-Students

やるネ! 筑女生

勉強をはじめ、さまざまなことに積極的に取り組む筑女生の活躍を紹介するコーナー。今回は「震災復興ボランティア」に取り組む大学生と、「九州の優秀な高校生を未来の科学者に育てる九州大学の取り組み」に参加し、研究成果を発表した高校生(今春卒業)に登場していただきました。

01

【大学】

震災復興ボランティアに参加したことで見えてきたもの

俵口紗季さん(大学/発達臨床心理学科3年)



いて専門的な知識があるわけでもない自分に来るようになって、ほとんどないだろう」と決めつけていました。しかし、時が経つにつれ、「行動せずに後悔したくない」「現地に行きたい」と考えるようになった私は、多くの社会福祉協議会やボランティアアセンターに問い合わせました。その結果、青年海外協力隊OBを中心に結成された「災害ボランティア九州協力隊」に参加することができ、大震災から6カ月後、宮城県気仙沼市大島に向かうことができたのです。

そして、九州協力隊の活動から約半年後の今年2月末、大学の支援をいただき、再び被災地である岩手県に向かうことができました。

活動しようとする正体不明の私たちを受け入れてくださった人々。涙ながらにいろいろな話をしてくださり、生活している仮設住宅の中を見せ、「遊びでいいからまた来なさいね」と言ってくださった人々。東北の人々の使命が語り伝えることなら、専門的な知識も技術もない私の使命は、「その思いを受け継ぎ、また語り継ぐこと」という思いを強くしました。

育について考えることは、どこかで繋がっているということ。私は将来、特別支援学校の教員を目指しているため、子どもたちに対する社会的援助や自立支援について考える機会が多々あります。今回の活動を進めていく中で、まだ漠然とはありませんが、私にとってはどちらもずっと向き合っていきたい、向き合っていけるべき大きなテーマとなりました。

思いを受け継ぎ、語り継ぐことの大切さを実感

小

学校2年生の時に参加した障がい児サークルでの料理教室。これが私の様々な活動の原点であり、きっかけでした。その私が新たに足を踏み入れたのが、東日本大震災におけるボランティア活動です。

今でこそ活動を始めて良かったと思っていますが、最初は被災地向かうことを躊躇していました。昨年3月11日、テレビの中の光景を見ながら、「東北は、日本は、これからどうなってしまうのか。何かしたい、でも、遠く福岡に住んで

積み上げられた瓦礫の山やその横で生活する人々、見るもの聞くもの全てが良くも悪くも私の価値観を大きく変えました。自然の猛威に対する人間の無力さや自分の弱さを思い知らされた反面、困難に立ち向かう人間の強さや今まで知らなかった自分の可能性など、気づかされたことは数え切れません。

積み上げられた瓦礫の山やその横で生活する人々、見るもの聞くもの全てが良くも悪くも私の価値観を大きく変えました。自然の猛威に対する人間の無力さや自分の弱さを思い知らされた反面、困難に立ち向かう人間の強さや今まで知らなかった自分の可能性など、気づかされたことは数え切れません。

い浮かべながら聞いていると、頭の中で3Dを疑似体験している感覚になります。それでも、被災地にゆかりのない人にとって、被災者と同じ気持ちになることは難しいことなのかもしれません。しかし、語り継ぐことで変えられるものはたくさんあります。「福岡から来ました」と言って、変わり果てた故郷で

災害ボランティアと特別支援教育との共通点

大きな発見となったのは、東日本大震災について考えることと、特別支援教育

ボランティアをはじめ、様々な活動ができることへの感謝を忘れず、「できることをひとつずつ」。これをモットーにこれからも様々な挑戦を続けていこうと思います。



1年経ったとは思えない風景。



「思いを伝えるため」
学内の壁一面に貼られた被災地の写真。

02

【中学・高等学校】

九州大学の高校生プロジェクトに参加し 研究成果を「未来の科学者養成講座」で発表

原朱音さん(中学・高等学校/平成24年3月卒)

科学を愛する方々との
出会いが
大きな刺激と喜びに!

私

は、2010年9月から
2011年3月まで、九
州大学の「エクセレント・ス
チューデント・イン・サイエン
ス育成プロジェクト」に参加し
ました。このプロジェクトは、

物理・化学・生物・数学の4
部門からなり、私が参加した
のは数学部門です。まずは、
大学レベルの内容の講義を
受けて、知識を身につけま
す。その後、生徒それぞれの
興味に合わせた課題を選び、
大学で実際に活躍されている
先生方や大学院生の先輩方に
助けをもらいながら、課題に
取り組みます。

取り組みます。

私が取り組んだ課
題は、まだ説明されて
いない未解決の分野
でした。高校で学習す
る数学は、解き方を
習ってから演習を繰
り返します。あらかじ
め地図が与えられて
いるようなものです。
しかし今回は、解き方
を教えてもらうこと
はできません。類似の
問題を参照したり、講
義で得た知識の中か
ら使えそうなものを
選び出しながら、手探

りで進んでいかなければな
りません。困難にぶつかると
も多々ありましたが、その
度に「苦しい」というよりは、
むしろ「面白い」と感じてい
ました。誰も解いたことのない
問題に取り組むことの喜
びや充実感を感じることが
できました。

加えて、科学を愛する多く
の方々との出会いが、私に
とって大変良い刺激となり
ました。九州大学でお世話に
なった先生方は、数学の面白
さを示してくださいました。
また、このプロジェクトに参
加した高校生は、優秀な生徒
ばかりで、ともに科学者を目
指す仲間として交流するこ
とができました。

全国発表会で見えてきた
新たな課題への挑戦。
そして恩師への感謝

そして、このプロジエ
クトの研究発表会にお

いて「エクセレント・スチュー
デント」として表彰され、
2011年9月に東京大学
で行われた「未来の科学者養
成講座第2回全国受講生研
究発表会」に九州大学代表と
して出席し、発表しました。
私の研究に興味を持ってく
ださった先生方からアドバ
イスをいただき、とても貴重
な経験になりましたが、新た
な課題も見つけました。それ
は、「社会に貢献するにはど
うすればよいか」ということ
です。全国発表会で質疑応答
を受けたとき、物理や生物の
教授の方々から、「あなたの
研究は何の役に立つのか」と
のご質問をいただきました。

これは、「興味本位の研究だ
けでなく、社会に役立つ研究
をしなければならぬ」とい
うご指摘であると考えまし
た。「役に立つ研究」とは何な
のか、という問いに対する答
えはまだ出ていません。こ
れからじっくり考えていき

たいです。
私は将来、科学者になり
たいです。今回、様々なこと
を学び、多くの人と出会っ
たことで、その思いがますます
強くなりました。4月か
らは、九州大学理学部生物
学科に進学しています。将
来は生物の中に潜む数学的
法則について研究したいで
す。例えば、ヒマワリの種の
並び方には、1, 1, 2, 3, 5, 8 :
という、前2つの項を足して
次の項をつくるフィボナツ
チ数列が隠れています。こ
のような法則が生物にもた
らす利点は何か、突き詰め
てみたいと思います。

今回、このような素晴ら
しいプロジェクトに参加す
るきっかけをくださったの
は、中学校の増田菜美先生
です。先生は、私を美しい数
学の世界に誘い、中高の6年
間見守ってくださいました。
本当にありがとうございます。



原さんが東京大学で発表した研究
「ある退化型二階非線形微分方程式の時間大域解と減衰」。